



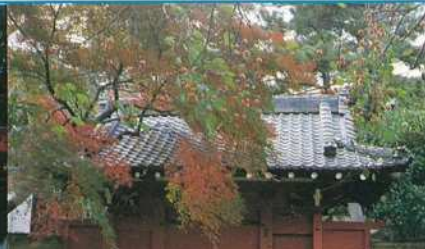
⑪ 淡島の灸の森巖寺 ● 代沢 3-27-1 ● 小田急線・井の頭線下北沢駅下車

江戸時代の初め、徳川家康の次男結城秀康公の位碑所として建立された。建物に三葉葵の紋所が見られる。また境内には、樹齢400年のイチヨウが一對と、お灸と2月8日の針供養で知られる淡島神社がある。森巖寺や北沢八幡、阿川家の屋敷林のあるこのあたりは緑深い木々に包まれている。



⑩ 北沢八幡の秋祭り ● 代沢 3-25-3 ● 小田急線・井の頭線下北沢駅下車

世田谷北辺の守護神として、吉良家によって勧請された。世田谷七沢八社随一、正八幡と称され、人々の尊崇を集めてきた。秋の例大祭には30台もの神輿が出て、境内一帯は人々で賑わう。とくに神輿が境内に繰り込む時は圧巻で、まるで絵巻物を見るようだ。



⑨ 代沢阿川家の門 ● 代沢 3-9-16 ● 小田急線・井の頭線下北沢駅下車

江戸時代この一帯の名主だった阿川家の門は美しい紅殻色に塗られている。屋敷林の緑、そして紅葉のとき、門の色に照り映えて見事である。門越しにのぞく母屋も昔の名主屋敷の遺構を残し、代沢のまちの歴史をとどめた静かな一角だ。



⑬ 天狗まつりと真竜寺 ● 北沢 2-36-15 ● 小田急線・井の頭線下北沢駅下車

小田原大雄山最乗寺の分院真竜寺は昭和4年に下北沢に建てられた。小さな石段を上がって境内に入ると、大きな天狗の面が目につく。節分の日の天狗まつりには、天狗の面と大天狗、小天狗、袴姿の年男などが豆をまきながら商売繁昌、家内安全を祈り、商店街を練り歩く。



⑫ 下北沢北口の市場 ● 北沢 2-24 ● 小田急線・井の頭線下北沢駅下車

暮しに密着した食品や衣料などが所狭しと並び、活気に満ちている。通路が買物客で身動きもとれぬほど賑わう。戦後間もないころのことかふと思える。買物客が引け、店が閉まった後の風情も捨てがたい。暮しのエネルギーが残してきた風景といえよう。



⑭ 若者と下北沢のまち ● 小田急線・井の頭線下北沢駅下車

本多劇場、ロングラン・シアター、ガスズナリなどの劇場があり、演劇の新しいメッカとなっている。まちにはたくさんの若者が訪れ、ユニークな店も目立っている。探れば探るほど、多くの顔を見つけることのできるまちといえるだろう。



⑮ 下北沢の阿波おどり ● 小田急線・井の頭線下北沢駅下車

8月、地元の諸連が総出で踊りまくる。下北沢のまちには阿波踊りが不思議なくらいよく似合う。いまでは、下北沢の夏には欠くことのできない一大イベントとなっている。工夫をこらしたそれぞれの踊りを見てみると、いつまでも飽きない。



③ 世田谷観音とその一帯 ● 下馬 4-9-4 付近 ● 東急バス世田谷観音前下車

昭和新選江戸三十三観音礼所のうちの三十二番礼所にあたる。戦後建立の寺で、区内で最も新しい。京都の六角堂を模した不動堂には、運慶の孫の康円の作といわれる、国の重要文化財の不動明王と八大童子が納められている。また、大太平洋戦争で散った特攻隊員を祀った特攻観音堂がある。



② 大古道と池尻稲荷 ● 池尻 2-34-15 付近 ● 新玉川線池尻大橋駅下車

大古道の面影を訪ねることができる。街道沿いにあった池尻稲荷には「涸れずの井戸」がいまもこんこんと湧いている。江戸市中を発った旅人は道筋ここまで飲み水がなく、この井戸で喉を潤したという。



① 世田谷公園 ● 池尻 1-5 ● TEL 412-7841 ● 東急バス自衛隊中央病院入口下車

中央広場の噴水を挟んで北側がスポーツ施設。南側の公園ではプレイパークが開かれている。園内の小高い丘には区制50周年(昭和57年)を記念して、子ども達から50年後の子ども達へのメッセージなどを入れたカプセルが埋められている。ミニS.Lは土・日や祝日、学校の休みに合わせて走り大変な人気を集めている。



⑥ 太子堂圓泉寺とけやき並木 ● 太子堂 3-30-8 ● 東急バス国立小児病院前下車

聖徳太子を祀った太子堂の由来から地名が生まれたという。明治4年、境内に「郷学所」が設けられ、世田谷の教育発祥の地となったところだ。エノキの大木の並木は、農村だったころ区内随所に見られた屋敷林の名残りともいえる。秋の境内は紅葉したエノキやイチヨウの落葉で黄色のカーペットが敷かれる。



⑤ 太子堂下ノ谷界わい ● 太子堂 2丁目、4丁目 ● 新玉川線三軒茶屋駅下車

茶沢通りの中ほどから入ったところに下ノ谷商店街がある。下町情緒の懐かしい雰囲気の店が並んでいる。第一・第三日曜日の朝9時から10時まで朝市が立ち、賑わう。まちと人々がつくり出す原風景とでもいったものが見られる一帯だ。



④ 世田谷線(玉電)が走る

東急世田谷線は三軒茶屋と下高井戸を結んでいる。住宅街を縫って走る沿線にはのんびりとした風情がたぐい、百景に選ばれた所も多い。玉電と呼ばれて、多くの区民から愛されている。



⑧ 代沢の住宅街 ● 代沢 2・3丁目一帯 ● 小田急線・井の頭線下北沢駅下車

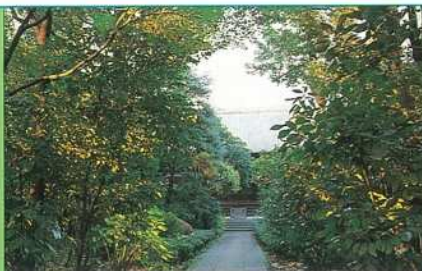
関東大震災後の区画整理で誕生した世田谷の代表的な住宅街。戦前から高官や著名人が居を構えた。坂が織りなす地形の表情が変化に富み、散歩には好適。生け垣に四季の移ろいを楽しむことができる。



⑦ 北沢川緑道桜並木と代沢の桜祭り ● 代沢 3・4・5丁目付近 ● 東急バス代沢四丁目下車

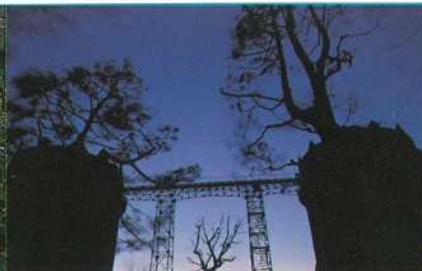
代沢地区の北沢川緑道の両側には、桜並木が続いている。満開になると花のトンネルになり、花見の宴が繰り広げられる。地元主催の桜祭りには甘酒の無料接待やパレードなども行なわれる。





⑭弦巻實相院界わい●弦巻3-29-6付近●東急バス弦巻営業所下車

吉良家開墓の寺院で、正式には鶴松山實相院。禅寺にふさわしく、境内には木々がうっそうと茂り、森閑としている。まちなかの寺とは思えない風情があり、鳥の声に耳を澄ましたくなる。代官屋敷のちょうど裏手あたりになるが、この辺は江戸時代の世田谷の中心だったところだ。



⑮駒沢給水所の給水塔●弦巻2-41-5●新玉川線桜新町駅下車

大正末期にできたこの給水塔の姿は、付近の人々に長い間親しまれてきた。木造の平屋や2階建の家々ばかりだったころは、現在よりもさらに目立っていたことだろう。ランドマーク(土地の目印)として一対の給水塔は今も建在だ。



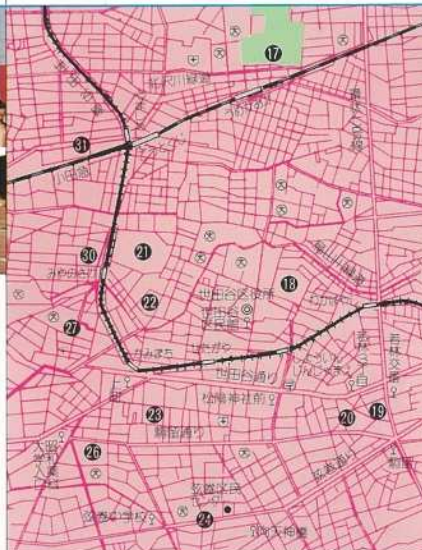
⑯蛇崩川緑道

下馬から三軒茶屋・上馬・弦巻まで全長約3キロにわたって続く。蛇崩川にフタをして作った遊歩道で、地下には現在下水道の幹線が通っている。サクラ、フジ、サツキ、アジサイ、クチナシなどが季節季節に花咲き、道行く人を楽しませる。



⑰収穫祭と東京農大●桜丘1-1-1●バス農大前下車

農業大学にふさわしく、緑の多い構内に校舎が建っている。正門を入ってすぐ化石植物メタセコイアの小さな林がある。またイチョウは、東京管区気象台から委託を受けた生物季節観測標本で、東京の紅葉時の目安となっている。秋の収穫祭には学生、教師、住民ともに実りの喜びを祝う。



⑱宮ノ坂勝光院と竹林●桜1-26-35●世田谷線線上町駅下車

世田谷城主吉良家の菩提寺。江戸期には家康から御朱印寺領30石を与えられた格式の高い寺で、境内には風格のある庭木も見られる。とくに美しいのは竹林で、竹垣とあいまって品のよい雰囲気をも出し出している。鐘楼の梵鐘は、戦争中応召されたが、錆つぶされず、10年ほど前に元の姿で無事帰ってきた。



⑳奉納相撲の世田谷八幡●宮坂1-26-3●世田谷線宮の坂駅下車

石の鳥居をくぐると、右手に弁天池がある。その少し上手に土俵が設けられ、観客席がちょうど円形劇場のように広がっている。奉納相撲で知られるこの八幡は、吉良頼康の創建と伝えられる。江戸時代には「江戸三大相撲」の一つといわれるほど有名になり、現在も秋季大祭の9月15日には、学生や若者の奉納相撲が行なわれる。



㉑経堂の阿波おどりと万燈みこし●小田急線経堂駅下車

ハイライトは万燈神輿。夜のまちに神輿の胴の武者絵が浮かびあがり、提灯の灯が揺らぐ。これを、かつぐために、威勢のよい若者が関東近県から500人も集まるといふ。阿波踊り参加者も毎年増えている。



㉒梅と桜の羽根木公園●代田4-38●T E L 322-1184●小田急線梅ヶ丘駅下車

梅ヶ丘駅北口の小高い丘が区立公園になっている。以前は六郎治山とか根津山と呼ばれていた。梅林には梅の木が約650本植えられ、2月下旬紅梅白梅の咲きそろうころには多くの人々が訪れる。また春には桜の名所でもある。子ども達自身が遊びを工夫し、自由気ままに遊べるプレイパークも設けられている。



㉓羽根木神社の参道●羽根木2-8●バス守山小学校下車

都水道局和田堀給水場近くに羽根木神社の小さなお社がある。今は住宅が建て込んで、農村だったころの面影はほとんどないが、社まで続いた参道のケヤキ並木が地元住民の運動によって一部残されている。風景変遷のものいわぬ証人だ。



㉔さぎ草ゆかりの常盤塚●上馬5-30-19●バス若林3丁目下車

世田谷城主吉良頼康の側室常盤の悲しい物語にまつわる塚が、上馬のまちなかの家と家との間にひっそりとある。常盤の放った白鷺があわれ頼康の鷹狩の手にかかり、その骸を葬った地には一面のさぎ草が咲いたという。現代のまちなかに伝説を甦らせる一隅の小風景だ。



㉕上馬の駒留八幡神社●上馬5-35-3●バス若林3丁目下車

鎌倉時代後期、このあたりの地頭だった北条左近太郎入道成頼は、八幡宮の勧請を誓い、乗った馬の留まったところに社殿を造ろうとした。これが現在の地で、馬が留まったところから駒留と名付けられたといわれる。戦国時代には吉良氏との縁も深く、常盤と死産した吉良頼康の子が祀られている。



㉖松陰神社と若林公園●若林4-34、35●世田谷線松陰神社前駅下車

安政の大獄で刑死した吉田松陰は、南千住回向院に葬られた後、門下であった高杉晋作らの手によって若林村の毛利家抱屋敷内に移されたが、明治になってここに社殿が建てられ松陰神社となった。社殿の左手奥に、松陰と志を同じくした人々の墓がある。隣接の若林公園の木立は盛夏涼しい木陰を作り、人々の憩いの場となっている。



㉗ボロ市と代官屋敷●世田谷1-29-18付近●T E L 429-4237(区立郷土資料館)●世田谷線世田谷駅または上町駅下車

ボロ市通りには毎年12月と1月の中旬にボロ市が立つ。北条氏の楽市に起源を持つこのボロ市は、四百年の伝統を持ち、今も賑わいを見せている。通りの中ほどには茅葺の武家屋敷門の代官屋敷がある。これは江戸時代の中ごろ、初代の代官に任ぜられて以来、代官を勤めた大場家の屋敷が残されたものだ。敷地内には世田谷区立郷土資料館もある。



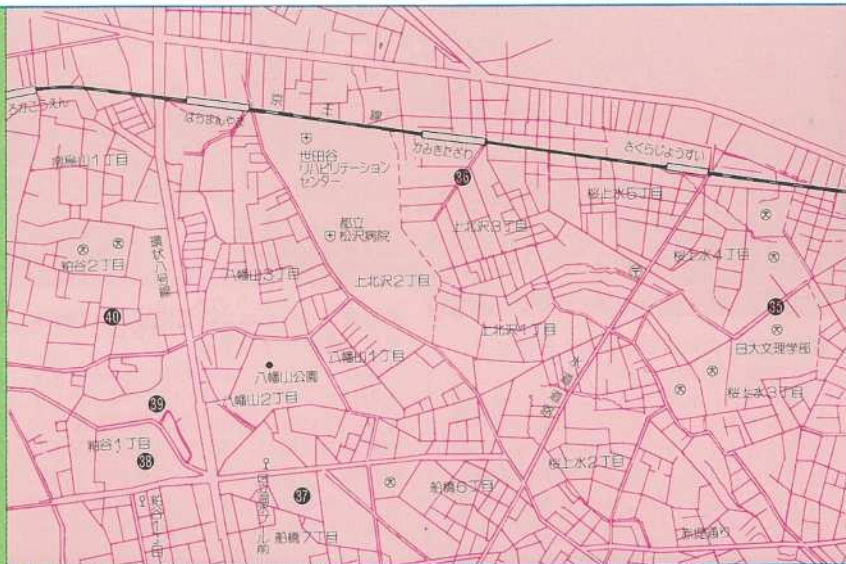
㉘世田谷城址公園●豪徳寺2-14●世田谷線宮の坂駅下車

初代吉良氏が南北朝のころ、関東管領足利基氏から戦の手柄により武蔵国世田谷領をもらいうけて、築城したのが始まりといわれる。平城で、三方を堀で囲んだ防備の堅固な城であったが、現在はわずかに小高い台地の中に枯山水風の谷や小川があり、緑の茂る公園となっている。



㉙招き猫の豪徳寺●豪徳寺2-24-7●世田谷線宮の坂駅下車

井伊家の菩提寺。幕末の大老井伊直弼の墓もここにある。区内有数の名刹で、広い境内には江戸開府のころ「オイデオイデ」の手招きで井伊直弼を危険から救ったという招き猫の伝説の招福堂や鐘樓、本堂が建っている。福を呼ぶ招き猫が門前の店で売られている。



⑩ 粕谷の竹林 ●粕谷2-11 ●京王バス芦花恒春園下車
世田谷からは竹林も姿を消しつつあるが、粕谷あたりには、はっとするほど見事な竹林がまだまだ残っている。風が渡る時などは、ほんとうに素晴らしい。春、垣ごしに頭を出している竹の子を見つけるのも楽しい。残して欲しい風景だ。



⑪ 烏山の鴨池 ●北烏山4-30-1 ●京王線千歳烏山駅下車
寺町の北の外れにある高源院の鴨池には、秋も深まるとたくさんの鴨が飛んで来る。コガモ、カルガモ、マガモなどが、浮御堂を映した水面を泳ぐ。夏には睡蓮などが咲き乱れ、赤い欄干にもたれていつまでも見飽きない。湧き水の涸れることのないこの池は、地域住民の環境協定で守られている。

⑫ 烏山寺町 ●北烏山2・4・5丁目 ●京王線千歳烏山駅下車
東京の小京都といわれるこの一帯は寺院が連なり、静かで緑濃いたずまいとなっている。関東大震災後、被害にあった都心の寺院が移転して寺町はできた。景観を守るために、地域の住民の手で自主的に環境が保持されていることにも注目したい。一日ゆっくり寺々を訪れば、それぞれ見所の多いところでもある。

⑬ 烏山西沢つつじ園 ●北烏山6-15、16 ●小田急バス朝日ヶ丘下車
4月から5月の初め、満開時の西沢つつじ園は色彩の乱舞する華やかさでおおわれる。ツツジ、サツキの品種も多く、愛好家はもちろん多くの人々が訪れる。入口付近の年を経たカラタチの太木も珍しい。園内では苗木の販売も行なわれ、遠くから買い求めに来る客もあると聞く。



⑭ 給田小学校の民俗館 ●給田4-24-1 ●小田急バス朝日ヶ丘下車
給田小学校の一角にワラ葺のままの農家が保存されている。農具などの農村生活に深い関りがあった道具類も併せて保存され、小さな民俗館となっている。農村だったころを思い出させる、児童にとって得がたい郷土教育の教材でもある。

⑮ 旧甲州街道の道筋 ●南烏山3丁目～給田3丁目 ●関東バス給田下車
南烏山から給田へとつく道はかつての甲州街道。昔の街道筋を偲ばせる風景はほとんど残っていないが、実はこの道筋そのものが街道だったことを忘れるわけにはいかない。道の由来を知られば、その時代、時代の道筋の風景を脳裏に浮かべることができる。

⑯ 北烏山の田園風景 ●北烏山7-30付近 ●小田急バス牟礼前下車
都会の緑の保全に都市農業が役立っていることが見直されている。田園風景などとともに世田谷から消えたかと思われている人も多いが、この一帯には生産緑地としての畑が残っている。田園風景の広がっていた世田谷の昔日が思い出される。



⑰ 松原の菅原神社 ●松原3-20-17 ●京王線明大前駅下車
境内に朱塗りの社殿が目立つ。江戸時代、石井兵助という人が寺小屋を開き、学問の神様である菅原道真公を祀ったのが始まりだろうと伝えられる。いままも学業祈願、合格祈願の絵馬札がたくさん下がっている。

⑱ 松原のミニいちよう並木 ●松原6-22、23 ●小田急バス松原下車
松原の住宅街のなかにかわいらしいイチヨウ並木がある。戦前、別荘の敷地のなかに植えられていたものが、戦後の住宅地化のなかで生き残って、今の姿になった。まちの小さな一角に季節の訪れを告げ、付近の人々から親しまれている。また戦災から焼け残った昭和初期のモダンな住宅が見られるのも楽しい。

⑲ 北沢川緑道ユリの木公園 ●宮坂2丁目 ●小田急線豪徳寺駅または世田谷線山下駅下車
北沢川緑道でもこのあたりは都会的な趣きのある遊歩道だ。レンガタイルを敷き、芝生を植え、ユリノキが並び、スツールが置かれて、公園のような緑道となっている。近所の人々のゆきとどいた手を入れて、いっそう心地よい憩いの空間となっている。



⑳ 上北沢の桜並木 ●上北沢3丁目 ●京王線上北沢駅下車
住宅街の道の両側に桜並木がつづいている。桜は毎年欠かさずこのまちに訪れる春を確かめてきた。地図の上で見ると、中央の通りからちょうど助骨のように規則正しく斜めに、枝道が延びている。この道が助骨通りと呼ばれる由縁だ。区画整理された際に桜の木が植えられたことがわかる。

㉑ 日大文学部の桜 ●桜上水3-25 ●京王線・世田谷線下高井戸駅下車
新学年に満開の桜は欠かせない風物詩。日大文学部には立派な桜のアーケードがあり、勉学に意欲を新たにしている学生たちを迎えてくれる。青春時代の学び舎の忘れがたい風景として、記憶されている。

㉒ 下高井戸の阿波おどり ●京王線・世田谷線下高井戸駅下車
「おどらにや、そんな……」町会・商店会を中心に始めた下高井戸の阿波踊りは年々規模が大きくなってきた。本家に負けない熱気と興祭が町を包む。



㉓ 芦花公園と粕谷八幡 ●粕谷1丁目 ●TEL 302-5016 (芦花公園) ●京王線芦花公園駅下車
芦花恒春園は、文豪徳富蘆花が明治40年から昭和3年の死去までの20年を、愛子夫人とともに過ごしたところで、園内には蘆花記念館と当時のままの書院、母屋が残されている。裏手には、児童公園や散策にいい公園が続いている。近くの粕谷八幡には蘆花ゆかりの「別れの杉」二代目が植えられている。このあたりは緑の深い趣きのあるところだ。

㉔ 廻沢のガスタック ●粕谷1-7-8 ●小田急バス粕谷一丁目下車
巨大な球形のガスタックもいつの間にか、まちの風景のなかに溶けこんでいく。朝日を浴び、夕日に照らされ、雨に霞んで、一沓の風情さえ帯びてくる。都市風景のなかで一際目立つランドマークだ。

㉕ 船橋の希望丘公園 ●船橋7-9 ●小田急バス千歳温水プール前下車
ガスタック群や清掃工場、団地の三つの大きな建築物が空を圧しているなか、公園がある。小高い丘に木が植えられ、芝生がきれい。園内には水が巧みに設計して取り入れられており、水の流れる広場は周囲の風景に清涼感を与えている。



⑮ 成城3丁目桜ともみじの並木 ● 成城3-10-33付近 ● 小田急線成城学園前駅下車
春の桜のころや新緑の5月ももちろん美しいが、秋の紅葉のトンネルも素晴らしい。落葉を踏みしだいて歩く趣きのある散策路だ。この小風景を愛する住民も多い。車の入らないこうした小道は、まちなかに奥行きをつけてくれる貴重な空間だ。



⑯ 成城の富士見橋と不動橋 ● 成城2～5丁目 ● 小田急線成城学園前駅下車
切り通しを抜けて小田急線が走る。二つの橋はこの小田急線に架かっている。よく晴れた日は、崖線を越えて丹沢の山々や遠く富士山を望むこともできる。夕日の沈むころには、懐かしい哀感のたがよう陸橋の風景が浮かび上がる。



⑰ 成城住宅街の生け垣 ● 小田急線成城学園前駅下車
成城のまちを歩くと、手入れのよく行き届いた生け垣を見ることができ、住民がまちを大切にしてきた歴史がよくわかる。家々に住む人々の個性や趣味がそれぞれ感じられて、興味が尽きない。



⑱ 野川と小田急ロマンスカー ● 小田急線成城学園前駅下車
崖線を抜けた小田急線はまず野川を渡る。川辺の緑と一瞬のコントラストを作り、走り抜けるロマンスカーは私鉄沿線ならではの風物詩。



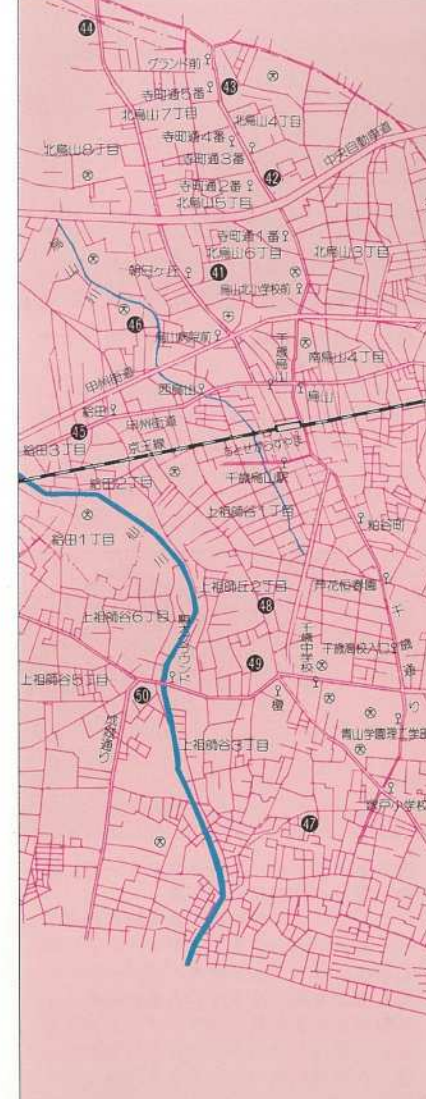
⑲ 成城3・4丁目の崖線 ● 小田急線成城学園前駅下車
崖線に沿って緑が豊かに残されている。低地を下る坂は両側の深い緑で隈取られ、台地との間に陰影をかたちづくる。まちに変化に富んだ散歩道があることは素晴らしいことだ。



⑳ 喜多見慶元寺界わい ● 喜多見4-17-1 ● バス喜多見橋下車
江戸氏の祖を弔って建立されたといわれる。江戸氏は皇居のあたりに居を構えていたが、家康が江戸築城のおりこの地に退き姓も喜多見と変えた。江戸氏追善の塔がある。広い寺域に沿う小道は、奥多摩から多摩川を下った筏師が歩いて帰ったという「いかだ道」で、ところどころにのどかな郊外の風景を見ることが出来る。



㉑ 喜多見氷川神社と禰善寺跡 ● 喜多見4-26-1付近 ● バス喜多見橋下車
一千年以上も前の創建と伝えられている。境内は保存樹林地となっており、昼なお暗いほうとうそうとし、野鳥も多い。長い参道をたどって社殿に至るが、村の鎮守の社の姿そのままだ。ここに伝わる里神楽は区内の貴重な民俗芸能の一つとなっている。



㉒ 上祖師谷の六郷田無道 ● 上祖師谷1、2丁目 ● 小田急バス下車
狭いうえに交通量も多く、古い道とは想像もできない。しかし、道筋に寺や社を見つげると、かつてのんびりとした往来が目につかってくる。地形に素直に合っている古い道は、なぜか人の匂いがある。



㉓ 祖師谷つりがね池 ● 祖師谷5-33 ● 京王バス塚戸小学校下車
雨乞いのため、僧が釣鐘を抱えて身を沈めたところから、その名が付いたと伝えられている。現在は付近の子ども達の絶好の遊び場だ。池の周辺には緑も残り、雨が降った後には池底から水が湧き出すのを見ることが出来る。小さな風景だが、なんともいえない親しみがある。



㉔ 上祖師谷神明社 ● 上祖師谷4-19-24 ● 小田急バス駒大グランド下車
浅藍色をした社殿は昭和41年に建てられたもの。江戸時代から上祖師谷の鎮守だったと思われる。神明社の脇を通る道は、昔「滝坂道」といわれた街道で、現在も交通量は多い。時代の激しい移り変わりをじっと見つめてきたお社といえる。



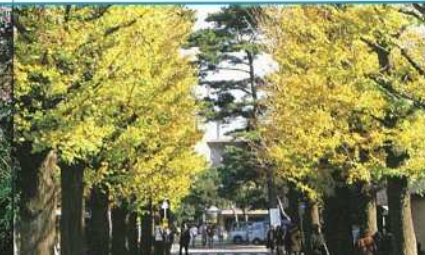
㉕ 武家屋敷風の安穏寺 ● 上祖師谷2-3-6 ● 小田急バス橋下下車
寛永年間(1624~44)に建てられたといわれるが、一時荒れはてていたため詳しいことは不明。古い墓石には名字を持つものが多く、謎が深まる。車の往来の激しい坂道に沿って、山門や白壁の塀が黙然と存在している。



㉖ 成城学園の池 ● 成城6-1 ● 小田急線成城学園前駅下車
成城学園とともに、成城のまちは発展してきた。大学構内にある池のほりは若い学生たちの憩いの場になっている。戦前から自由な教育で知られる成城学園の学生たちは、やはり成城のまちの雰囲気似合っているところがあるようだ。学園裏手の仙川沿いに延びる小道をたどれば、いまは少なくなった川沿いの景観を楽しむ小散策ができる。



㉗ 成城の桜並木 ● 成城6・7丁目 ● 小田急線成城学園前駅下車
桜のないまちの春はなにか物足りない。満開の時など、まちに一気に春が訪れたことを告げてくれる。花見の宴のにぎわいはないが、路上や家々の屋根に降る花びらは、閑静なこのまちに春の風流心を呼び起こす。



㉘ 成城学園前のいちよう並木 ● 成城6丁目 ● 小田急成城学園前駅下車
大正末期から昭和の初期にかけて計画的に造成された住宅地である成城のまちには、まちの人々が大事にしてきた景観がそこかしこに見出される。学園前に延びるイチヨウ並木もその一つで、四季それぞれにまちに表情を与えてくれる。



76 岡本民家園とその一帯 ●岡本 2-19-1 ●TEL 709-6959(岡本民家園) ●バス 砧工業高校前下車

瀬田から移築復元された茅葺きの古民家を中心に、農家のありさまが再現されている。鶏の遊ぶ庭先、野菜や草花の植えられた畑など当時そのままの姿を見ることができる。民家園の隣には岡本の鎮守様八幡神社が深い木立のなかに鎮まっている。また民家園のある岡本公園の一角ではホタルを養殖しているが、これは崖線から湧き出る清冽な水が利用できるからだ。夏の夕日にはホタルの飛びかう姿を見に多くの人が岡本公園を訪れる。



74 多摩川灯ろう流し ●二子玉川緑地運動場付近 ●新玉川線二子玉川園駅下車

お盆の灯ろう流しは夏の水辺の代表的な風物詩。多摩川の灯ろう流しは川筋をきれいにという市民運動から生まれた。夜の闇に流れていく灯ろうの明りが郷愁をさそう。



77 兵庫島 ●玉川 3丁目先 ●新玉川線二子玉川園駅下車

昔、新田義興が謀られて最期を遂げたとき、同じ船に乗っていた家臣、由良兵庫助の屍が流れついたところから、兵庫島といわれるようになった。この小島からずっと河川敷がつづき、野球場、サッカー場、テニスコート、ピクニック広場などのある二子玉川緑地運動場になっている。水辺に広がるスポーツ、レクリエーションゾーンとして多くの区民に利用されている。



71 岡本もみじが丘 ●岡本 2-23付近 ●東急バス岡本三丁目下車

綾錦のような紅葉に松の緑を点々と散りばめた秋景は息を呑むようで、多摩川八景(行善寺八景)の一つ「岡本紅葉」とうたわれた。今、開発の手から守ろうとする地元の熱意は強い。



78 新二子橋からの眺め ●新玉川線二子玉川園駅下車

多摩川を真中に左右に世田谷、川崎のまちの眺望がひらけ、さらに上流の光景も目に入ってくる。ふだん住みなれたまちなかでは感じられない、もう一つのまちの姿だ。このパノラマ風景を見ていると、河川や地形がまちの形成に深く関わっていることが納得できる。



70 岡本三丁目の坂道 ●岡本 3-33付近 ●東急バス岡本三丁目下車

国分寺崖線には多摩川沿いに下る坂道が何本も通っている。岡本3丁目の坂道はなかでも勾配が強く、急な坂をたどるとき国分寺崖線の斜面を実感する。坂上からは丹沢の山々も眺望できる。



75 岡本静嘉堂文庫 ●岡本 2-23-1 ●TEL 700-2250 ●バス 吉沢下車

門を入るとイチョウや杉など木々の間を縫って、ゆるい坂道がつづく。モダンな造りの静嘉堂には旧三菱財閥の岩崎弥之助、小弥太父子によって収集された和漢の典籍が保存され、時おり展示もされる。斜面に造られた庭園は武蔵野のたたずまいを残し、静嘉堂一帯は深い緑に包まれている。



75 多摩川の緑と水

世田谷区の南の区境に沿って流れる多摩川は区内に残された最大の自然の景観といえる。水量こそ減ったが、周辺に残された緑また河川敷の広々とした空間は大変貴重なものだ。清流復活の願いも徐々に実り、野鳥や魚影を以前より多く観察することもできるようになった。



80 大蔵団地と桜 ●大蔵 3丁目 ●バス 東宝前下車

今を盛りと咲き誇る桜。いちばん盛んな樹齢に達した桜が団地と世田谷通りを飾る。シックな団地の壁面と見事なコントラストを作りあげる。住民の皆さんご自慢の春の眺め。



80 砧ファミリーパーク ●砧公園 ●TEL 700-0414 ●東急バス 美術館前下車

日比谷公園の約2倍の園内には一面緑の芝生が敷きつめられている。ゆるやかな起伏と木々が公園の景観にほどよい変化を与えている。家族連れやグループでのんびり一日楽しむには絶好の場所で、遠近各地から訪れる人々が多い。園内にオープンした区立世田谷美術館も人気を呼んでいる。



80 岡本玉川幼稚園と水神橋 ●岡本 3-35-10付近 ●東急バス 岡本三丁目下車

玉川幼稚園の建物は二・二六事件で暗殺された蔵相高橋是清の別邸だったもので、山荘風の構えがよく幼稚園にマッチしている。風光明媚な国分寺崖線には戦前多くの高官や財界人の別荘別邸が建てられ、現在の良好な住宅街に引きつけられてきた。水神橋あたりには当時別荘から眺められた田園風景の面影がそこはかとなく残っている。



82 砧小学校の桜 ●喜多見 6-9-1 ●バス 東宝前下車

小学校の校庭に咲く春の桜は誰にとっても懐かしい思い出があるものだ。砧小学校の桜の老木は地区の子ども達の入学と卒業を何十年にもわたって見守りつけてきた。



85 大蔵の総合運動場 ●大蔵 4-6 ●TEL 417-4276 ●東急バス 区立総合運動場下車

都立砧公園と道を挟んで作られた運動公園で、門を入ると正面に近代的な体育館と噴水が目に入る。他に野球場、陸上競技場、テニスコート、洋弓場、プールなどのスポーツ施設が完備され、さわやかな汗を流すスポーツ・ゾーンとなっている。フィールド・アスレチックコースは子どもたちに人気が高い。



86 大蔵の永安寺 ●大蔵 6-4-1 ●バス 永安寺下車

山門を入ると樹齢数百年といわれる大イチョウがある。永安寺は室町時代鎌倉の大蔵谷に建てられたものが、地形も地名も似たここに再建されたといわれている。本堂右側には江戸幕府のころ書物奉行を務めていた石井一族の墓がある。六代目兼重(かねしげ)は、世田谷地域での図書館の始まりとなった「玉川文庫」を創ったので知られている。



81 宇奈根氷川神社 ●宇奈根 2-13-19 ●バス 永安寺下車

農村風景をそこかしこにとどめる宇奈根。氷川神社の境内には子ども達の遊ぶ姿を見かけることも多い。村の鎮守様は健在だ。都市化の波でつぎつぎに失われていった村の鎮守の原像を見る思いがする。秋祭りには地区の人総出で大いに賑わう。



84 大蔵の五尺藤 ●大蔵 1-9-3 ●バス 砧町下車

大蔵の和田さん宅にある藤は、その名どおり房の長さは1メートルを越え、房の数は6千以上にもなる。5月の初旬、紫の花が満開になるころは見物に訪れる人も多く、まちの名所の一つになっている。



79 東名高速の橋 ●総合運動場の脇 ●東急バス 区立総合運動場下車

大蔵総合運動場と砧公園の脇を東名高速が走っている。高速道路を跨ぐ公園橋から見た疾走する自動車群は圧巻だ。夕闇が訪ればヘッドライトの光の奔流が走る。日夜鼓動する日本の大動脈の一端を見る思いがする。